

令和6年度 自己評価表(年度当初)

鳥取県立倉吉東高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 主体的学習者の育成 2 21世紀をリードする人材の育成	今年度の重点目標	1 学校の魅力化・特色化の推進・発信と中高連携の強化 2 定時制教育のさらなる充実 3 生徒支援の充実と業務改善の取組
-------------------	----------------------------------	----------	---

○評価基準 A 80%以上(概ね達成) B 60~80%(一定の成果がある) C 40~60%(さらなる努力が必要) D 40%以下(現状が改善されていない)

【全日制課程】

年度当初					評価結果()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
学校の魅力化・特色化の推進	国際バカロレア(I B)教育の実施(グローバル人材育成重点校) GP2・CP1	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教員が共に初めて取り組むプログラムであるため不安もある中で、IB生の一期生のDP授業が始まった。生徒たちは前向きに学びに取り組んでいる。 ・二期生については、選考時期を早める改善を行いつつあり、適切な進路選択とプレIBを通じたIBの学び方の定着が一層求められている。 ・一期生のために数年前にワークショップに参加し、先進校視察や研修を通じて準備してきた教員が一期生の指導にあたっているが、2025年度からはその教員以外の教員もIBの授業を担当することになるため、2024年度からの準備が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートを実施し、80%以上の生徒がATL各スキルについて意識して習得し活用しようとしている。 ・生徒アンケートを実施し、80%以上の生徒がコア科目の学習意義を理解し前向きに取り組んでいる。 ・探究型学習の展開における図書館の有効活用を検証し、来館者数と貸出冊数の2つの積が1000を超える日が開館日の半分以上となっている。 ・2025年度に向けた指導体制を構築できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が各スキルをバランスよく身につけるためにも、教科担当者によるM&Iの中で協議し教科横断的に進める。様々な問題が生じた際に生徒が取得したスキルを活用して自身で問題を解決できるよう、伴走者としての教師の役割を確認する。 ・CAS・EEの各コーディネーターは、指導担当教員やアドバイザーと協働し推進する。TOK教師は、様々な科目の教師と一緒に授業が行えるように時間割を工夫する。 ・策定した図書館の方針について、ウェブサイトに加えて新入生のしおりや学校要覧等で概要を公表し、図書館活用の周知を進める。 ・ワークショップ参加や研修会参加を通じて、教員のDPの学びへの理解を深める授業準備を促進し、DPが指導できる教員を増やす。 			
	生徒主体の探究活動の実践(探究活動重点校) GP5・CP2	令和5年度は活動の自由度を高め、各教科の探究的な学び、キャリア教育とのつながりを教職員に求めたが、学校全体の生徒の自律的・自主的な学びにつなげる点で十分ではなかった。一部ではあるが積極的に活動にのぞんだ生徒は、地域の課題に対して提言したり、他校や他団体との協働を深めることができた。また、模擬国連や県主催のスタンフォード大学の授業参加等によって、国際的な視野を広げることができた。 【学校評価アンケート】 探究活動に意義を感じる 77%	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びの実践・学びの個別最適化に向けて、生徒の学習習慣、キャリア形成意識が適切に変容している。 ・総合的な探究の時間に加え、各教科でも探究的な学びの導入が促進され、シラバス記載のPBLが実施されている。 ・校内にとどまらず、地域や企業と連携した探究的な学びが展開されている。 【学校評価アンケート】 探究活動に意義を感じる 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意思決定力・しなやかさを身につける機会を提供し、学習習慣・キャリア形成意識の変容を促す。 ・探究学習において関係部署(教科:指導や助言・学年団:運営や進捗状況確認・分掌:外部連携など)との連携を強化し、支援する。 ・学習アプリなどICTの活用による、自習時間や非常時の学習活動の充実と学びの個別最適化をはかる。 ・シラバス記載のPBL実践と振り返りによる修正機会を保障し、授業改善と生徒の学習習慣の変容を促す。 ・関係部署・地域・企業などと連携して学校行事を綿密に計画・立案し実施する。 			
	IB教育の理念を生かした授業改善と評価(探究活動重点校) GP1・CP1	学習指導要領に対応した授業シラバスを作成し、探究活動先進校(立命館宇治)および進学先進校(灘中等高等学校)の先生にアドバイスをもらい高評価を得た。しかし、シラバス通りに進められていない授業もあり、また、授業アンケート実施が不十分であるなど、全体として授業改善に取り組めていない。 【学校評価アンケート】 授業に満足している 81% ICTを活用した授業は学力を効果的に伸ばしている 89%	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領とIB系の教育課程を充実させ、教科横断的な学びを通して学力の向上を図る。 ・総合的な探究の時間・LHR・学校行事等の充実を図る。 ・生徒の能力や特性、置かれている状況を考慮して生徒が学び続けられる環境や機会を確保する。 【学校評価アンケート】 授業に満足している 90%以上 ICTを活用した授業は学力を効果的に伸ばしている 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営委員会と連携して教育課程を検証し改善する。 ・IBワークショップや情報端末研修と連携して研究授業等を実施し、授業改善に努める。 ・共同運営部およびIB部と連携して学校行事を綿密に計画・立案し実施する。 ・自習時間は振替により減らし、非常時には配信授業等に対応することで授業時間を確保する。 ・シラバスの配信や学習アプリを有効活用するなどして各生徒に個別最適化された学びを促す。 ・授業アンケート等の内容を振り返り、適切な学習習慣が確立できるように努める。 			
	学力向上による進路目標の実現 GP5・CP3	<ul style="list-style-type: none"> ・東大会や医学会等での取り組みや進路学習を通して自らのキャリア形成について考える機会としている。 ・主体的な学習者の育成に向け、学年、教科、分掌で連携して取り組んでいるが、基礎学力の定着が不十分な生徒もおり、進路目標を下げざるを得ない生徒もいる。 ・大学合格者数が学校目標(東京大学を含む超難関大学合格者数5名以上、難関大学合格者数20名以上、中堅大学合格者数50名以上)に達しておらず、特に上位層の育成が十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な観点から自らのキャリア形成に適した進路目標を設定し、その実現に向け計画的、主体的に学習に取り組む、自己の進路目標を実現できる学力を身につけている。 ・高い目標を持ちながら学習活動に意欲的に取り組むことで進路実現を果たし、その結果大学合格者数が学校目標に到達している。 【学校評価アンケート】 倉吉東高の進路指導は充実している 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会や進路学習等を更に充実させ、キャリア形成を考える機会とする。 ・学年、教科、分掌と連携し、面談や探究学習等を通して、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育てる。 ・進路検討会や学年会を通して適切な進路目標を検討し、進路指導体制を充実させる。進路指導テストや校外模試等を利用して到達度を計り、進路実現に向けて学習活動の更なる充実を図る。 			
	国際交流の充実と語学力の向上(グローバル人材育成重点校) GP3・CP4	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国、台湾、シンガポール、フィリピンの各交流校とオンラインで意見交換を行った。また、10月の桃園高校来校では、生徒交流を行い、台湾の高校生に鳥取県中部の魅力伝えることができるなど、英語力向上と、異文化理解の機会につなげることができた。 ・本校の実施する国際交流等の取組に生徒が積極的に参加するようになり、グローバル人材育成の事業が軌道に乗り始めた感がある一方で、参加する生徒に偏りがあることが課題である。 ・英語による発表に注力してきたが、交流を進める上では、「やり取り」や「ディベート」などの指導の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化を理解し、他者に対する敬意と思いやりを持ち、主体的に行動できている。 ・グローバルリーダーとして、地域貢献・国際貢献につながる学びを行っている。 ・主体的な国際交流活動(海外研修旅行を除く)参加者数、のべ100名。 ・CEFR: B2(英検準1級)レベル5名以上・B1(英検2級)レベル80名以上→B1レベル以上の生徒総数400名 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬国連(ハーバード方式)を生徒主体で運営していき、議会運営能力や国際的感覚を高めていく。 ・海外交流校の来校や桃園高級中学訪問など、交流の場面で「おもてなしの心」を涵養し、異文化理解を深める。 ・英検の他、IELTS、TOEFL等の語学検定の受検を積極的に勧め、受検者数・合格者数の検証を行う。 ・英語の「やり取り」に関する教職員研修会を実施するとともに、授業における英語のやり取り等を適切に実施する。 			

学校の諸活動の推進・発信と中高連携の強化	自己肯定感の向上につながる学校行事・部活動の実践 GP4	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動改廃規定によって今年度から募集停止・廃部の対象となる部活動が出たが、全校生徒のほとんどが何らかの部活動に所属して活動している (R6春で約82%)。 ・生徒会部主催の学校行事の企画運営にも多くの生徒が積極的に参画するなど、生徒と学校全体の関わりも増している。「学校評価アンケート(生徒)」では、部活動に対して令和5年度は90%(R4:91%)で、肯定的な評価を得ている。 ・各種中国大会をはじめとして、全国高校総体、全国高総文祭など、運動部・文化部ともに成果を上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学校行事と異なり、部活動が生徒の自己表現の場として、また、主体性や自律性を育む場となっている。 ・生徒会行事全般により生徒の関与の度合いを高め、生徒会活動や学校行事に対する「学校評価アンケート」での生徒の肯定的回答が90%を超えている。 【学校評価アンケート】部活動は充実している 肯定的回答が90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動全般が活性化しよう、顧問や部の要望をヒアリングしながら部費やその他助成金が効果的に配分されるようにする。 ・行事実施にあたり、生徒会事務局と前もって準備を進めていくことを徹底する。あわせて外部施設や外部機関との連携を密にしていける。 ・自己の成長が感じられるよう、生徒会活動・学校行事・部活動ごとに、失敗を恐れず挑戦することの大切さを伝える。 		
	育友会・同窓会・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会においてはコロナ渦前の取組が予定通りできるようになっている。総会も4年ぶりに集会形式での実施となり、参加者も多かった。役員の方々は大変積極的であるが、会員全体の盛り上げに欠ける部分がある。 ・同窓会においては総会を開催し、5年ぶりに懇親会も実施することができた。各支部の取組も予定通り実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会においては、保護者と教職員が一体となって、生徒を学習面、生活面から支援することができている。総会において300名の参加人数を目標とする。 ・同窓会においては、会員相互の親善を図り、各自の向上発展に寄与し、母校との連携が密になっている。総会・懇親会での参加者を150名とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員との連携を十分にとりながら、活動を活性化させる。 ・国際バカロレア (IB) 教育などの取組についての周知に努め、育友会及び同窓会会員の理解を深める。 		
	学校に関する情報の発信と中高連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・育友会ホームページや倉東だより等広報誌によって本校の教育活動についてリアルタイムな情報発信ができており、記事数もかなり多い。SNS(インスタグラム)のフォロワーも増え続けている。 ・中学での高校説明会、体験入学では本校の紹介を工夫しながら丁寧に伝えることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校ホームページがより魅力的なものとなり、情報発信力が向上している。SNSにおいてもリアルタイムな情報発信ができています。 ・HP閲覧数、SNSフォロワー数がさらに増える。年度末フォロワー数を2100名にする。 ・中学生に本校の特色や魅力が伝わり、志望する生徒が増える。中学生体験入学の参加数目標を320人とし、入試倍率を1.0以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動に係るリアルタイムな情報発信に努める。 ・育友会広報委員会と連携し、保護者の本校教育活動への一層の理解と支援を促進する。 ・中学生体験入学や高校説明会の内容を充実させ、本校の取組を中学生に分かりやすく広報する。IBについての周知を図る。 ・新しい取組として、中学生とその保護者対象の授業公開を育友会総会日の午前に設ける。 		

【定時制課程】

年度当初				最終評価結果()月			
評価項目	具体的項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策
定時制教育のさらなる充実	全ての生徒への安心安全で居心地のよい環境の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律が守られるとともに、生徒の学習到達度に合わせた学習内容となるよう工夫し、ICTを活用する場面を取り入れ、生徒のやる気と集中を促している。 ・生徒会執行部が中心となって運営される各種行事が、学校生活を継続するための生徒の励みになっている。 ・毎日の打合せで生徒の情報を共有し、個々に合った統一感のある迅速で適切な指導につなげている。特性をもつ生徒に対する指導に関しては、まだ工夫の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規律ある学習態度が維持され、生徒は学習の意義や目的を理解し、意欲的に学んでいる。 ・生徒全員が安心安全な環境のもとでルールやマナーを守り、他者を尊重するとともに、授業や学校行事を通して自己の成長を感じられる雰囲気は保たれている。 ・教職員が生徒のことをよく理解し、丁寧に適切な指導がなされることで信頼関係が構築されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のユニバーサルデザイン化と分かりやすい教材の工夫、Chromebookを活用した個別最適化された演習等を取り入れ、理解を促す指導を行う。 ・生徒が提案し、主体的に運営する生徒会活動となるよう工夫することで、生徒間の相互理解や連帯感のある集団となるよう努める。 ・生徒個々が抱える問題の解決に必要な支援や指導法について専門機関等と連携を強化するとともに、講師を招いての教職員研修を充実させ、個に応じた支援を行う。 			
	生徒の人的成長や進路目標達成のための教育活動のさらなる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は授業に真摯に取り組み、生徒会活動や学校行事を肯定的に捉え、進路実現を目指し、学校生活と就労の両立に努めているが、学び直し途上の生徒も多い。 ・生徒は率先して生徒会役員に立候補し、生徒会執行部員は先生方の協力を得ながら各種行事の企画・運営を行っている。 ・各種講演会や校外研修、職場見学・体験等を実施し、生徒の進路意識が高まるよう指導しているが、具体的な進路目標を立てる時期が遅い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する生徒の理解度や満足度が高く、それが個々の生徒の学力の伸長につながり、一人一人の希望進路が実現されている。 ・生徒が自己と他者を大切にし、人間的に成長するために、学習活動に加え、生徒会活動や学校行事等に意欲的に取り組んでいる。 ・様々な教育活動や社会体験を通して、生徒が社会で必要とされる力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び直しを取り入れながら、生徒が学習内容を理解しているか把握しつつ授業を進めたり、個に応じた学習内容を提供したりすることで、生徒の学習意欲を促し、満足度の高い授業を行う。 ・生徒が主体的かつ意欲的に取り組むことができる生徒会活動とすることで、生徒の自尊感情を育む。 ・各種講演会や校外研修、職場見学・体験の内容を見直し、生徒自身が生き方・在り方を考え、自己実現に向けて具体的取り組みができるよう工夫する。 			

【全日・定時制課程共通】

年度当初				最終評価結果()月			
評価項目	具体的項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策
生徒支援の充実と業務改善の取組	環境の変化、ストレス等に対応した生徒への心身両面でのサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な課題を抱えて心身のバランスを崩し、登校できない、登校しても教室へ入りづらい生徒が一定数見受けられる。 ・コロナ禍後の学校行事や教育活動の再開により、無理をしようとする生徒や集団活動の経験の少なさに起因する疲労感・不安を抱えている生徒がいる。 ・学校評価アンケートにおいて「倉吉東高の先生方は信頼できる」が生徒88%、保護者90%、学校評価アンケート(保護者)では「倉吉東高は生徒や保護者の思いをくみ取って教育活動をしている。」が87%と肯定的な評価を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が抱えている課題や悩みについて、正確な把握ができ、生徒とともに解決策を考えることができています。 ・教職員が様々な場面で個々の生徒の情報を共有し、外部の機関等ともつながりながら、組織的な支援体制を構築できています。 【学校評価アンケート】「倉吉東高の先生方は信頼できる」「倉吉東高は生徒や保護者の思いをくみ取って教育活動をしている。」ともに90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者との面接、アンケート調査、hyper-QUなどの検討を通じて生徒の悩みややりたい姿について理解を深める。 ・教員間の連絡を密にし、必要に応じて医療機関や福祉機関、行政機関と連携を取り、専門家の同席のもと支援会議を開くなどして、具体的な支援計画を策定し、実行と振り返り、改善を行っていく。 			
	・業務内容の見直し ・長時間勤務者の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は、一人当たりの時間外業務は月平均30時間以内となったが、年間の合計が360時間を超える教職員が10名を超えている。 ・時間外の多い9月の業務カイゼンの一定の目的が果たした。 ・定時制では、学校行事や校務分掌のバランスが取れており、時間外業務は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の月当たりの時間外業務が月平均30時間を超える者が10名以下である。 ・休養日、活動時間を設定した部活動の活動方針が全部活動で徹底できている。 ・業務内容の精選について、各分掌及び学年で着手できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外業務について、教職員が年間を通しての目標を意識する。また、部活動については、計画と実績報告との間に差異のないようにする。 ・校内業務の一層のDX化を図るとともに、改善された9月を含めて業務内容の点検を行っていく。 ・定時制については、引き続き行事と校内業務とのバランスをとっていく。 			